

# 事務事業評価シート

評価実施年度：平成30年度

上位の施策名称 施策Ⅲ-4-2  
自然とのふれあいの推進

## 1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長

自然環境課長 森脇 幸

電話番号

0852-22-5346

|         |  |   |
|---------|--|---|
| 事務事業の名称 | しまねの自然公園満喫プロジェクト推進事業   |   |
| 目的      | (1) 対象   | 外国人利用者をはじめとした県内自然公園の利用者                 |
|         | (2) 意図   | 県内の自然公園の活用を図り、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す |
| 事業概要    | 「明日の日本を支える観光ビジョン」で提言された国立公園のナショナルパーク化としてのブランド化に向けた、環境省の新規事業「国立公園満喫プロジェクト」に大山隠岐国立公園が選定された。これを機に県内自然公園（国立公園、国定公園、県立自然公園）の外国人利用者への対策や中国自然歩道などの安心安全対策を行い、自然公園の活用を図って、外国人利用者をはじめとした公園利用者の増加を目指す「しまね自然の公園満喫プロジェクト」を実施する。 |   |

## 2. 成果参考指標

| 成果参考指標名等 |      | 年度                      | 27年度  | 28年度 | 29年度  | 30年度 | 31年度 | 単位   |    |
|----------|------|-------------------------|-------|------|-------|------|------|------|----|
| 1        | 指標名  | 大山隠岐国立公園（島根県内）訪日外国人利用者数 | 目標値   |      | 11.0  | 14.0 | 17.0 | 20.0 | 千人 |
|          | 式・定義 | 平成29年の国立公園訪日外国人利用者数     | 取組目標値 |      |       |      |      |      |    |
|          |      |                         | 実績値   |      | 11.0  | 8.9  |      |      |    |
|          |      |                         | 達成率   | -    | 100.0 | 63.6 | -    | -    | %  |
| 2        | 指標名  |                         | 目標値   |      |       |      |      |      | 千人 |
|          | 式・定義 |                         | 取組目標値 |      |       |      |      |      |    |
|          |      |                         | 実績値   |      |       |      |      |      |    |
|          |      |                         | 達成率   | -    | -     | -    | -    | -    | %  |

## 3. 事業費

|             | 前年度実績   | 今年度計画   |
|-------------|---------|---------|
| 事業費(b) (千円) | 182,046 | 297,700 |
| うち一般財源 (千円) | 91,083  | 157,500 |

## 4. 改善策の実施状況

|                     |                        |
|---------------------|------------------------|
| 前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況 | ②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む） |
|---------------------|------------------------|

## 5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

平成28年7月、大山隠岐国立公園が国立公園満喫プロジェクトのモデル公園に選定され、外国人の受入環境の整備や体験プログラムの開発に向けての取組みを県内国立公園の4地域で行っている。そのうち隠岐地域は、ユネスコ世界ジオパーク、島根半島は日本ジオパーク、島根半島西部地域は、日本遺産に認定されており、満喫プロジェクトと連携した取組みを図って来訪者の増加に努めている。  
 （環境省からのH29年の大山隠岐国立公園の外国人観光客数の発表は、11,000人となっており、前年実績14,000人を下回っているが統計上の精査が必要とされており、平成30年調査から調査地点の見直しを図られる予定である。）

## 6. 成果があったこと（改善されたこと）

県内国立公園の公衆トイレ8カ所において、トイレの洋式化等再整備を行い、快適な受入環境の整備を図った。

## 7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

### ①困っている「状況」

- ・自然公園等の標識、遊歩道、休憩所などの施設整備がインバウンド対策を含め遅れている
- ・国内外の来訪者を満足させる体験プログラムの開発やツアー造成が少ない
- ・国内外における認知度が低い
- ・自然公園への交通アクセスが悪い
- ・三瓶自然館の整備を優先させると他の交付金事業が整備できない可能性がある

### ②困っている状況が発生している「原因」

- ・財源不足から十分な整備ができない。国の交付金が十分に配分されていない。
- ・地元の地域協議会などによるソフト事業の開発が不十分
- ・ホームページなどインターネットからの情報発信強化や国内外へのプロモーションの強化が必要
- ・自然公園への路線バスなどの公共交通機関の運行が不十分。

### ③原因を解消するための「課題」

- ・国から必要な交付金を十分に配分してもらうことが必要
- ・地元の地域協議会が活動するための財源と連携した取組みが必要
- ・中核施設である三瓶自然館のビジターセンター機能強化やHP等の情報発信の強化が必要
- ・また、部局間連携により国内外へのプロモーション強化など積極的な情報発信を図ることが必要
- ・自然公園への交通アクセス手法の検討が必要

## 8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

- ・国への重点要望など強力な働きかけを行い必要な交付金を十分に配分してもらう
- ・国内外からの来訪者が迷わず公園にたどり着けるよう案内看板やサインの整備、多言語化を行う
- ・また、安心安全、快適に利用できる自然歩道等の施設の整備と適切な維持管理を行う
- ・国立公園満喫プロジェクトの拠点整備として、三瓶自然館のビジターセンター機能の強化を図る（フィールドセンターの再整備と本館・新館の老朽化した博物展示の更新、情報発信の強化を図る）
- ・地元の地域協議会（市町村・民間事業者等）への支援を行い、体験プログラムの開発やツアーの造成、ガイド養成等を促進する
- ・国内外への情報発信強化としてホームページやパンフレット、マップの作成などの作成と多言語化を行う
- ・地域間を結ぶ広域的なモデルツアーを実施する
- ・自然公園への交通アクセスの手法を検討する